



八代の中学生たちと交流

中国北海市の青少年友好代表団が来代



▲松浜軒は誰がどう目的で使用していたのかを学習



▲ホームステイ先の人と初対面した歓迎レセプション

本市の友好都市である中国北海市の青少年友好代表団15人が、10月14日から17日まで本市を訪れ、ホームステイなどで八代の中学生などと交流を深めました。

両市は平成8年に友好都市を締結し、毎年交流を深めており今年で18年目です。14日の表敬を受け中村市長が「交流を通じて日本の生活や文化に直に触れてもらい、相互に理解を深める機会になれば」とあいさつ。同団の李才能団長が「日本から学ぶことはたくさんあるため、今後も友好交流を進めていきたい」と歓迎のお礼を述べました。

翌15日は第七中学校や松浜軒、博物館などを訪れ、日本の生活や文化、歴史などを学びました。同中学校では授業や給食を体験。美術の授業では、描いた風景の場所についての質問などで交流を深めていきました。

北海市第五中学校3年の陸源さん（りくげん）は「日本人は親切で礼儀正しい。街が綺麗に清掃されていることに驚きました。また、15日が私の誕生日だったので、ホームステイ先のご家族はケーキを準備して誕生日会も開いてくれて楽しい思い出となりました」と語りました。また、昨年12月に「八代市ジュニア友好派遣団」の女子中学生をホームステイで受け入れた同中学校2年の曾馨さんは「今回、彼女の家にホームステイさせてもらい再び会うことができました。八代市では、授業・給食体験や博物館などを訪問しましたが、ホームステイ先での時間が最も充実していました」と笑顔で話しました。

本市の友好都市である中国北海市の青少年友好代表団15人が、10月14日から17日まで本市を訪れ、ホームステイなどで八代の中学生などと交流を深めました。

両市は平成8年に友好都市を締結し、毎年交流を深めており今年で18年目です。14日の表敬を受け中村市長が「交流を通じて日本の生活や文化に直に触れてもらい、相互に理解を深める機会になれば」とあいさつ。同団の李才能団長が「日本から学ぶことはたくさんあるため、今後も友好交流を進めていきたい」と歓迎のお礼を述べました。

翌15日は第七中学校や松浜軒、博物館などを訪れ、日本の生活や文化、歴史などを学びました。同中学校では授業や給食を体験。美術の授業では、描いた風景の場所についての質問などで交流を深めていきました。

本町2丁目で彦一ばなしと仮装を満喫

ひこいちハロウィンフェスティバル・彦一商店街



▲自然に始まったハロウィンパレード



▲彦一とんち大喜利大会に2組10人が参加

10月26日、本町2丁目アーケードで「彦一商店街」と「ひこいちハロウィンフェスティバル」が開催されました。

彦一商店街では、「彦一とんち大喜利大会」が今年初めて行われ、とんち問題のクイズに参加者は悪戦苦闘していました。また、たまりんばで「彦一のおうちをたずねて、おはなし会」が行われ、「どぜう汁」など4話が熊本高専八代キャンパスの森山学准教授らによって披露されました。

ひこいちハロウィンフェスティバルでは、魔女やおばけなどに仮装した子どもたちが「トリックオアトリート（お菓子をくれなきゃいたずらするぞ）」と口にしながら本町2丁目の各店舗をまわり、お菓子を手に入れていました。「仮装コンテスト」には32組・約100人が参加し、グランプリにはティンカー・ベルとピーターパンに扮した八千把小1年の井上彩蓮さんと4歳の井上虎珀くんの姉弟が選ばれました。

バリアフリーで快適な生活空間に

八代支援学校 新校舎落成



▲完成した新校舎。外構などは今年度中に完成予定

高島山の麓にある八代支援学校の校舎改築が平成23年度から進められ、25・26年度で校舎棟が完成したことから、10月26日に学校運動場の特設ステージで落成記念式典が行われました。

南側の新たな敷地に建てられた新校舎は、鉄筋コンクリート造りの2階建てで、延べ床面積が約2900平方メートル。普通教室（16室）や職員室、家庭科室などの他、これまでなかった音楽室や図書室、多目的ホールが設けられました。また、重複学級には多目的トイレやシャワー室が併設されました。高台にある体育館や高等部校舎とは、新校舎の2階から勾配のない渡り廊下で結ばれる予定です。

式典では、在校生を代表して高等部の村井謙仁くんが「明るく広い新校舎には、これまでになかった教室もできました。学習に取り組みやすい環境を整えていただき、ありがとうございます」とお礼の言葉を述べました。

100歳 おめでとうございます



山下 モトさん
(日奈久大坪町)

大正3年11月8日生

現在、施設で暮らしているモトさん。8人きょうだいの長女として日奈久大坪町で生まれ育ち、結婚後は農業で、6人の子どもを育てました。手を合わせ、感謝の気持ちをも伝えるモトさんの長寿の秘訣は「デイサービスで身体を動かしたり、人と話したりしたこと」。

森田 テイさん
(坂本町)

大正3年11月5日生

4人きょうだいの末っ子として坂本で生まれ育ったテイさん。婿養子を迎え森田家を継ぎました。郵便局に勤める夫との間に恵まれた3人の子どもを、農業をしながら育てました。長寿の秘訣は「好き嫌いをせずによく食べ、よく寝ること」。

石村 フミ子さん
(川田町西)

大正3年10月28日生

5人きょうだいの一人娘として龍峯で生まれ育ったフミ子さん。同じ龍峯の人と結婚し、農業で5人の子どもを育てました。夫が中国に出征し、終戦後、復員しましたが病を患い、たいへん苦労をしたとのこと。長寿の秘訣は「自分で育てた野菜を食べていたことと丈夫な身体」。

富永 ツネさん
(坂本町)

大正3年10月26日生

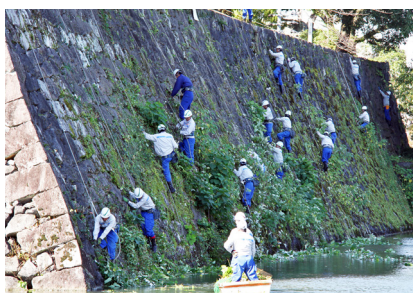
現在、施設で暮らしているツネさん。坂本町で4人きょうだいの長女として生まれ育ち、同じ坂本の人と結婚。製紙工場で働きながら、8人の子どもを育てました。手芸が好きで、手提げ袋などをよく作りました。長寿の秘訣は「野菜中心の食事と、前向きな性格」。

福永 初枝さん
(興善寺町)

大正3年10月15日生

現在、施設で暮らしている初枝さん。郡築で4人きょうだいの長女として生まれ育ち、同じ郡築の人と結婚。65歳まで農業をしながら豆腐屋を営み、園芸と手芸が好きで、肥後手まりを人に配って喜ばれました。長寿の秘訣は「前向きな性格で、打ち込める趣味があったから」。

八代城跡をボランティア清掃



▲雑草はボートで回収

九電グループの従業員約30人が10月23日、国の史跡に指定されている八代城跡の石垣の除草作業を行いました。これは、九電工全社で毎年実施している「さわやかコミュニティ旬間」の一環で、地域の誇りである文化財の美化に貢献しようといわれたものです。日頃の業務で培われた高所での作業技術を生かし、安全ロープを腰に巻き付け、石垣の上部から下部に移動。石垣の隙間に生えた雑草は鎌などを使って隅々まで取り除き、見る見るうちに石垣は綺麗になっていきました。

スポーツ講演会



▲久世由美子さん(左)と五輪のメダルを披露する松田文志さん(中央)

10月19日、やつしろハーモニーホールで「スポーツ講演会」が開かれ、約250人の観客が集まりました。講演を行ったのは、八代市出身で北京五輪・ロンドン五輪水泳日本代表コーチの久世由美子さんと同五輪の水泳バタフライで銀・銅メダリストの松田文志さんです。久世コーチは「オリンピックの結果が出ないと居心地が悪いとアテネ五輪で痛感。目標設定が大切だと実感した」、松田選手は「久世コーチに、常に上の目標を見させてもらいました」とモチベーション維持の方法について語りました。

最大級のクルーズ客船 八代港に寄港



▲八代港に寄港したクルーズ客船の中で、最大級を誇るコスタ・アトランチカ

イタリア船籍の客船「コスタ・アトランチカ」(総トン数8万5619t、全長292.56m、型幅32.2m)が10月18日、「やつしろ全国花火競技大会」に合わせて八代港に寄港し、中国から約2100人の乗客が訪れました。岸壁で行われた歓迎セレモニーでは、パスクワレ・アリーナ船長が「八代は海も景色も美しい。将来にわたり引き続き八代への寄港があるよう願っています」とあいさつしました。同船は18・19日の2日間八代港に滞在し、乗客は花火観覧や八代市内観光、阿蘇・熊本市方面などの観光を楽しみました。



エイジレス・ライフ実践者に選定



▲「エイジレスの秘訣は、好きなようにやりたいことをすること」と語る守田満さん(中央)

内閣府が実施している「エイジレス・ライフ実践者」と「社会参加活動事例」の紹介事業で、エイジレス・ライフ実践者(個人)に選ばれた千反町の守田満さんが10月27日に市役所を訪れ、中村市長から「エイジレス草」の書状と記念の盾を受け取りました。

守田さんは、マスターズ陸上の1000mと2000mの種目で世界記録を樹立し、現在も記録更新を目標に日々練習に励んでいます。

中村市長は「守田さんの活躍は市民の皆さんに力を与え、若い人たちにとって目標です」と祝いの言葉を述べました。

人権の花運動

10月26日、八代支援学校の児童や生徒などが、「人権の花運動」で育てた花の種子を紙風船に付けて飛ばしました。これは法務省からの地方委託事業



▲大空高く飛んでいく紙風船

徒などが、「人権の花運動」で育てた花の種子を紙風船に付けて飛ばしました。これは法務省からの地方委託事業

で、花の種子や球根などを子どもたちが協力しながら育てることで、生命の尊さを体感し、優しさや思いやりの心を育みます。

育てた花はヒマワリやアサガオなど6種類。4月に種子を植え毎日水やりや観察を続け、6月に満開の花を楽しみ、9月に種子を収穫しました。

音楽に合わせて大空高く飛んでいく紙風船に子どもたちは「いってらっしゃい」と大きく手を振り、種子を拾った人が大事に育ててくれることを願いました。

もち米粉を使用したスイーツを開発



▲もちページのPRに訪れた皆さん

八代農業高校の食品科学科の生徒やJAやつしろ、JA熊本経済連、製菓店ボンブが八代産の「もち米粉」を使用したスイーツ「全力青春「もちページョン」」を共同開発し、10月24日に市役所でPR試食会を行いました。

「もちページョン」の原料は全て八代産。プリンの上に八代産のもち米粉を使用した新食感クリームとピューレ状にした晩白柚ジュレがトッピングされており、トロリとした食感が売りです。今後、JAやつしろ緑のシンフォニー北部店やボンブ、ボンブアニバーサリーで販売されます。

第3回 ラブひな杯タッグレース



▲一般の部優勝チーム「ラブひな」の走り

11月3日、日奈久温泉センターばんべい湯前でラブひな杯タッグレースが行われ、子ども部8チーム、一般の部10チームが出場しました。

1チーム3人以下で、長さ約7m、重さ30kgの綱を100〜150mの距離を引いて走ります。参加者は、枝分かれた綱を腰や肩に巻き付け、歯を食いしばりながら日奈久の街路を駆け抜けました。

優勝チームは、子ども部が「Dream 火流A」、一般の部が「ラブひな」でした。ラブひなチーム代表の丸尾憲尊さんは「ゴールでの達成感がたまりません」と笑顔で話しました。

モニュメント「きらり」の清掃活動



▲デッキブラシで床面を磨きサニクリーン九州八代営業所の社員

10月31日、清掃サービスや環境品質マネジメントなどを行っているサニクリーン九州八代営業所の社員12人が、地域貢献を目的に新八代駅前モニュメント「きらり」を清掃しました。同社は、モニュメントが雨風にさらされて泥や苔が付着するため、定期的に清掃活動を行っています。

壁面や周辺のスツールは専用のシートで丁寧に拭き上げられ、黒く汚れた床はデッキブラシで磨かれ、見る見るきれいになりました。日頃の業務で培った手際よよい作業で「きらり」を訪れた人を気持ちよく迎える新八代駅のシンボルとして、元の美しい姿になりました。

八代・天草架橋の事業採択を目指して



▲体験談を講演する仲間明典所長

八代・天草架橋建設促進市議会議員連盟主催による講演会が10月28日、八代ホワイトパレスで開催され、国・県議会議員をはじめ近隣市町村の首長や議員、民間関係者など約80人が参加しました。

来年1月に完成予定の伊良部大橋(沖繩県宮古島市)を成功例として、今後の活動に生かそうと開催されたものです。当時、事業採択に携わった元沖繩県伊良部町役場企画室長の仲間明典さんが「悲願の大橋不可能を可能にした男」と題して講演。「行政と議会、住民が一致団結し、やる気と情熱、タイミングが大事」と話しました。